

ATP

ATP AWARD

2021

ASSOCIATION OF ALL JAPAN
TV PROGRAM
PRODUCTION COMPANIES
AWARD

▶▶ 第37回 ATP 賞 テレビグランプリ
受賞作を振り返る

創り手が選ぶ
創り手のための賞！



THE 37TH GRAND PRIX

プロフェッショナル 仕事の流儀

「庵野秀明スペシャル」

スローハンド、NHK エンタープライズ / NHK 総合

ATP

グランプリ

THE 37TH GRAND PRIX

● ドキュメンタリー部門 ● **最優秀賞**

プロフェッショナル 仕事の流儀

庵野秀明スペシャル

スローハンド、NHKエンタープライズ / NHK 総合



制作統括 荒川格(NHK)、河瀬大作(NHKエンタープライズ)
土橋圭介(NHKエンタープライズ)
プロデューサー 伊豆田知子(スローハンド)、横山友彦(NHK)
撮影・ディレクター 久保田暁(スローハンド)
編集 織田竜弘



受賞者コメント

この度は素晴らしい賞をいただきありがとうございます。番組放送後、想像もしていなかった反響の大きさに私自身も驚いております。

4年という時間をかけ、多くの人が「見たい」と思っていた庵野さんに取材できたこと、本当にそのことに尽きるのだと改めて感じています。取材を受けてくださった庵野さんはじめスタジオカラーの皆さま、関係者の方々に深く感謝申し上げます。

小さなカメラを片手にふらっとやってくる私を見て「本当に大丈

夫か？」と心配されたことと思いますが、エヴァ制作現場の caos は何とかカメラにおさめることができました。番組に入りきらなかった面白いシーンはたくさんありますが、その心残りを糧に、これからの番組制作に励んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、長く険しい道のりを共に歩んでくださった番組チームのみなさま、本当にありがとうございました。

ディレクター 久保田 暁(スローハンド)

講評

「庵野監督は0号試写を見ないねん」とは、当作品を観た明石家さんまさんが某番組で語った言葉。いま誰もがその舞台裏を知りたい人物、それが庵野監督なのだろう。4年にわたる密着で見えて来た彼の愛すべき変人ぶりは、コロナ禍の閉塞感を破壊するほどのインパクトがあった。一方で翻弄され煙に巻かれる取材陣。呼び出されてダメ出しされたかと思えば、敢えて監督の思惑に乗っかる。エンターテインメント性も評価し最優秀に票を投じた。

三井 貴美也



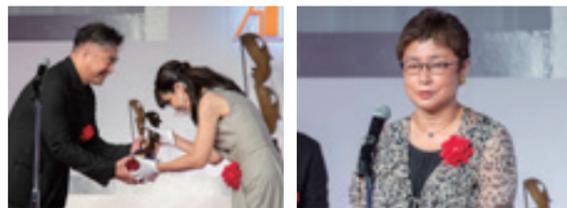
最優秀賞

THE 37TH BEST AWARD

● 情報・バラエティ部門 ●

魔改造の夜 前編 トースター高跳び / 後編 ワンちゃん25M走

テレビマンユニオン、NHKグローバルメディアサービス / NHK BSプレミアム



制作統括 内田俊一(NHK)
長澤智美(テレビマンユニオン)
野島学(NHKグローバルメディアサービス)
構成 竹村武司(Mo Green)
総合演出 鬼頭明(テレビマンユニオン)
取材ディレクター 鈴木洋平(テレビマンユニオン)
古堤桂太(テレビマンユニオン)
制作 平田早季(テレビマンユニオン)

受賞者コメント

バカバカしく“どうかしてる”この番組に素晴らしい賞を下され、本当にありがとうございます。「役に立たない技術は、人を幸せにすると私は知っている」魔改造倶楽部・主催者のこの哲学が、評価されたのですね。「合理的」「効率重視」「実用的」そんな価値観に縛られる今だからこそ、全てを振り切って、無駄に面白い魔改造の夜でひそやかに人間らしさを分かち合うのです。ものづくりに日夜励むエンジニアの皆様へ深く感謝。魔改造倶楽部は、引き続き、最高の舞台を用意させていただきます！

プロデューサー 長澤 智美(テレビマンユニオン)

講評

「魔改造の夜」。タイトルからワクワク感が漂い、始めると実に「バカバカしい課題」に最高峰の技術者たちが真剣に挑む・そのアンバランスな面白さに惹き込まれた。観る側としても“やってみよう”“どうなるの？”と、冒険心をくすぐられ、その結果に興味津々。演出方法も実況中継スタイル、映像表現、計測、全て本気モード全開。でも映像は・“珍妙にして滑稽”まさに最高のエンターテインメントに仕上がっていた。

中根 三美

最優秀賞

THE 37TH BEST AWARD

● ドラマ部門 ●

金曜ドラマ MIU404

TBSスパークル / TBS



脚本 野木亜紀子
プロデュース 新井順子(TBSスパークル)
演出 塚原あゆ子(TBSスパークル)、竹村謙太郎(TBSスパークル)
加藤尚樹(TBSスパークル)
音楽 得田真裕(ワンミュージック)
主題歌 米津玄師(ソニー・ミュージックレーベルズ)

受賞者コメント

この度は、素晴らしい賞を頂きありがとうございます！「MIU404」は、個性豊かなキャラクターの会話劇を大切に、スピード感のある新たな警察ドラマを目指しました。一つ一つのテーマを大切に、エンターテインメントとは何かを追及した作品です。経験したことのない数々の困難をスタッフキャストで乗り越え、放送を待っていたくれた方々にお届けできたこと、一生忘れることはありません。この作品に携わって頂いた皆さま、そして作品を応援して頂いた皆さまに、心から感謝いたします。本当にありがとうございました！

プロデューサー 新井 順子(TBSスパークル)

講評

既存の警察ドラマスタイルから脱却し、少人数で事件解決できるフォーマットによる新しい警察ドラマを誕生させた。テンポの良い展開でありながら年配視聴者も置きざりにしない丁寧なストーリーで、その内容も硬軟あり、独りよがりでないよく練られた構成。「マウントの取り合いは悲劇しか生まない」などの台詞は今どきで◎。キャストの個性の活かし方も卓越で幅広い年代が楽しめるエンターテインメント作品に仕上がっている。

佐野 奈緒子

ドキュメンタリー部門 BSIスペシャル レバノンからのSOS コロナ禍 追いつめられるシリア難民
NHKエデュケーショナル、椿プロ / NHK BSI



受賞者コメント
2020年1月、シリア難民取材のため訪れたレバノンでコロナ禍に遭遇。3月空港も封鎖、出国の道を絶たれ、苦境に立たされた難民たちを目の当たりにした。臓器を売る難民もいる中、差別や家庭内暴力が広がり自殺者までも出た。とりわけしわ寄せを受けていたのは弱い立場の女性と子供だった。私の心に強く響いたのは、困難に負けまいと強く生きていこうとする難民たちの姿だった。
ディレクター 金本 麻理子 (椿プロ)

講評
生きる為に臓器を売り、性を売るシリア難民たち。広がる差別と暴力。弱い人々がコロナ禍でさらに弱い立場に追い込まれる絶望的な現実が、伝聞ではなく、全て当事者への取材の中で繰り広げられる。売春で得た金を渡すことを拒んだ妹を、酒に酔った兄が殴る瞬間には思わず声が出た。そこにカメラがあるという驚き。「この現実を伝える」という制作者の使命感を全てのシーンから感じる。大胆かつ果敢な取材に賞賛を送る。
八木 里美

ディレクター 金本麻理子(椿プロ)
プロデューサー 塩田純(NHKエデュケーショナル)、東野真(NHK)
コーディネーター 中川輝子 / 音響効果 河原久美子(PACO)
アシスタント・プロデューサー 石井佳美(椿プロ)
取材 藤井沙織(椿プロ)

ドキュメンタリー部門 NHKスペシャル 浅草、遠い春を待ちながら ~下町経営者と信用金庫~
NHKグローバルメディアサービス、日本電波ニュース社 / NHK 総合



受賞者コメント
本番組は上野地区を取材したBSIスペシャル(7月放送)の続編にあたり、舞台を浅草に移した作品です。第一弾含め、協力頂いた全ての中小企業、信用金庫の各支店、番組スタッフに感謝申し上げます。出会った中小企業は皆さん、追いかける夢や、信念があり、各々の個性があわさって地域の魅力を創っていました。コロナ禍で中小企業の営みが途絶えれば、日本はどこも同じ風景になってしまいます。そんな怖さも感じた取材でした。
プロデューサー 江南 亮 (日本電波ニュース社)

講評
いったいどれだけの事業者が絶望を味わったろうか? 時折発表される倒産件数や自殺者数では真実は伝わらない。だからこそドキュメンタリーの存在意義がある。浅草の“リアル半沢直樹”と崖っぷち経営者たちにスポットを当てた着想が素晴らしい。「飲食だ
け犬死にだよ」そう吐き捨てて頭を抱えた経営者。普段は優しい下町に聞こえる怨嗟の声。コロナ禍という不条理の中で、もがき苦しむ市井の人々の姿が多くの真実を語っていた。
三井 貴美也

語り 原田美枝子(舞プロモーション)
制作統括 江南亮(日本電波ニュース社)、相場章(NHKグローバルメディアサービス)、川口潤(NHK)
ディレクター 高橋泰一(日本電波ニュース社)
取材 小坪夏美(日本電波ニュース社) / 撮影 宮永昭典
音響効果 渡辺真衣(東京サウンド・プロダクション)

ドキュメンタリー部門 ETV特集 夫婦別姓 “結婚”できないふたりの取材日記
NHKエデュケーショナル、鐵磁石 / NHK Eテレ

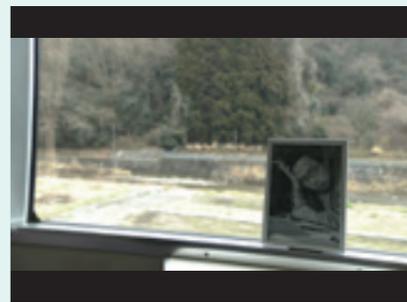


受賞者コメント
この作品は家族を含め当事者たちが画面に出ることの勇気と覚悟がないと成り立ちませんでした。それぞれの立場で素直な想いを語ってくれた皆に感謝の気持ちでいっぱいです。結婚したいだけの二人が感じた日本社会の“当たり前”に対する違和感。「おかしくない?」は“夫婦取材”の大きなモチベーションとなりました。番組が身近にある色んな“当たり前”を見つめ直すきっかけのひとつになれば、とても嬉しいです。
ディレクター 高橋 敬明 (鐵磁石)

講評
夫婦は同姓が当たり前、そんな“常識”に真っ向から挑んだセルフドキュメンタリー。極私的な二人の悩みや葛藤を赤裸々にさらけ出した勇気に感服した。立ち足る両親や法律の壁、揺れ動く二人の物語に引き込まれていくうち、視聴者もまた己の常識を揺さぶられ、この社会の成り立ちを考えさせられる。それは夫婦別姓にとどまらない。誰もが身近に感じる題材で、ユーモアを交えつつ奥深い問題を投げかける力作。お二人に幸多かれ!
鐘川 崇仁

制作統括 東野真(NHK)
三浦尚(NHKエデュケーショナル)
李忱(鐵磁石)
ディレクター・撮影 高橋敬明(鐵磁石)

情報・バラエティ部門 新日本風土記 スペシャル 松本清張 鉄道の旅
かわうそ商会、NHKエンタープライズ / NHK BSプレミアム



受賞者コメント
松本清張は古びない。数十年前の小説がまだにドラマとして制作されるし、この番組もけっこうな視聴率をたたき出した。42歳という、作家としては遅いスタートを切りながら千近い作品を残した清張。その口癖は「時間が足りない、私には書きたいものがまだまだある」だ。あやかりたいと思う。小生も、38歳という、ディレクターとしては遅い出発をして25年。遥か千には及ばなくても、生涯、番組を作り続けたいと思う。
ディレクター 正岡 裕之 (かわうそ商会)

講評
文豪・松本清張の足跡を鉄道と共に辿る旅。数々の資料から紐解かれる知られざる清張の姿を見事に描き出した上質な人物伝である。深いリサーチ力と確かな取材力に負けない美しい映像と音楽、そして松たか子の心地よいナレーションというバランスがとても素晴らしい。観はじめた者をその世界観に引き込んでしまふ、これぞプロの仕事と言える。「もう一度、清張作品を読み返したくなる」日本の記録と記憶が詰まった力作。
芦田 政和

ディレクター 正岡裕之(かわうそ商会) / カメラマン 手島透(フロントロー)
音声 白鳥勝俊(アクセルオー) / 音響 河原久美子(PACO)
編集 行徳美津子(映像プロ) / AD 木村有里(かわうそ商会)
プロデューサー 後藤沙希(かわうそ商会)、伊藤純(NHKエンタープライズ)、池田由紀(NHKエンタープライズ)

情報・
バラエティ
部門

サンバリュ スポーツ撮れちゃった!フィルムフェスティバル ~2020夏~
AX-ON / 日本テレビ



©NTV

受賞者コメント

優秀賞に選ばれたという吉報に、MCの満島真之介さんやスタッフ一同、歓喜に沸きました。地道な取材を重ねてきたスポーツディレクターたちと、ご協力頂いたアスリート、その双方が幸せになれるよう未放送の素材を放送したい!という思いから企画が始まりました。

た。放送後、選手から感謝の言葉を頂きました。これまで積み上げてきたスポーツの取材映像で日本を元気にしよう!その想いが実り優秀賞が取れちゃった!とても幸せです!

プロデューサー 吉村 真人 (AX-ON)

講評

日の目を見ることのなかった膨大なスポーツ素材を見事に料理し魅力ある作品に仕上げている。同じ作り手として、よくそこに視点を当て、選手の素顔、面白・貴重映像を探りだし、完成まで漕ぎつけたと感服した。取材ディレクターやカメラマンの申告という演出も、観た

くなる気持ちにさせる手法だった。スポーツを題材とした新たなソフト、まさにホームラン級の企画。

中根 三美

チーフプロデューサー 今井田彩(日本テレビ)
プロデューサー 脇山浩一(日本テレビ)、吉村真人(AX-ON)
演出 松本和将(日本テレビ) / チーフディレクター 上田容史(AX-ON)
ディレクター 小村直之(AX-ON)、河野夏美(AX-ON)
AD 鷹山菜鈴(AX-ON(富士巧芸社))

情報・
バラエティ
部門

爆買い★スター恩返し 第3弾
IVSテレビ制作 / フジテレビ



受賞者コメント

出演者・出演者の地元の方々、コロナ禍にも関わらず、すごく前向きに撮影にご協力頂いた事を改めて感謝致します。スター芸能人が地元で恩返しの為に自腹で爆買いする姿は、どこか誇りを感じました。また、地元の方々の笑顔もたくさん見られ、とても嬉しく思います。

芸能人・地元の方・視聴者、皆が喜べたwin-winの番組になれたと思っています。今回の受賞で我々スタッフもwinになって最高の気分です!更なる飛躍を目指して精進致します。

プロデューサー 渡邊 正人 (IVSテレビ制作)

講評

生まれ育った地元で恩返しの気持ちを込めて爆買いするという、オールロケによるタレントバラエティ。“恩返し×爆買い”という、一見ミスマッチとしか思えない企画を、手練れの演出陣と出演者による圧倒的な牽引力で、飽きさせない2時間半に仕立て上げた。設定

金額のクリアに番組のモチベーションが傾いてしまった感否めないが、コロナ禍の環境も取り入れながら、あの手この手と魅せる工夫を随所に散りばめた演出は見事。

松葉 直彦

プロデューサー 渡邊正人(IVSテレビ制作)
演出 千頭浩隆(IVSテレビ制作)
ディレクター 市川貴弘(IVSテレビ制作)、須原淳一郎(IVSテレビ制作)、栗原悠太郎(IVSテレビ制作)、青木香澄(IVSテレビ制作)

ドラマ
部門

プレミアムドラマ カンパニー 逆転の Swan
TBSスパークル / NHK BSプレミアム



受賞者コメント

本格的なバラエティとドラマを融合した今までにない挑戦で、無謀すぎると言われた企画でしたが、形にできただけでも嬉しかったのですが、バラエファン以外の方にも楽しんで頂けて、このような素晴らしい賞まで頂き、主人公・青柳のように「人生でたった一度だけ飛び

上がった瞬間を味わったような気分です。すべては素晴らしいキャスト、ドラマ&バラエ界の情熱的なスタッフの奇跡の巡り合わせのお陰です。心から感謝申し上げます。

プロデューサー 宮武 由衣 (TBSスパークル)

講評

バラエティをドラマ化という難題に、しかもコロナ禍で果敢に挑戦。バラエティに馴染みのないサラリーマンを主人公として、視聴者は彼目線で未知の世界を覗くことができ、わかりやすく見応えあるエンターテインメントドラマに仕上がっていた。「白鳥の湖」を完全再現し、バ

レエとドラマが見事に融合、昇華した最終話は圧巻。厳しい制作環境を微塵も感じさせなかった制作陣、バラエ描写に圧倒的なリアリティを与えた俳優陣の頑張りにも拍手を贈りたい。

代情 明彦

原作 伊吹有喜 / 脚本 梅田みか / 音楽 田淵夏海
制作統括 樋口俊一(NHK)、加藤章一(TBSスパークル)
プロデューサー 宮武由衣(TBSスパークル)
演出 松田礼人(TBSスパークル)、柳澤孝義(TBSスパークル)

ドラマ
部門

オトナの土ドラ その女、ジルバ
テレパック / 東海テレビ・フジテレビ系



©東海テレビ/テレパック

受賞者コメント

この度は栄えある賞、ありがとうございます。電車の中で「あんな素敵なお店があったら毎日通っちゃうよ」「私、今すぐOLD JACK&ROSEで働きたい!」という声も。有間しのぶ先生の原作と吉田紀子さんの脚本に詰まった、名台詞群はまさに宝石箱!それを、日本を代表す

る名優達が澁淵と闘い、踊り、村上監督をはじめ腕利きのスタッフが総力戦でドラマを創り上げました。このように結実したこと、一同心から幸せに思います!

プロデューサー 黒沢 淳 (テレパック)

講評

主役の熟演とベテラン俳優陣の技が随所に光る。ストーリーでは、40代3人娘の友情が心に沁みる。主人公たちが集うBARのセットもセンスが良く、居心地の良い空間を美術スタッフがよく表現している。人生の折り返し地点を過ぎると前進するパワーが落ちてくる

が、このドラマは「人生は今からだ!」と勇気とヤル気を与える。放送はコロナ禍の真只中だったが、閉塞感の中でこの作品が視聴者にもたらした希望は大きかったことだろう。

佐野 奈緒子

原作 有間しのぶ(小学館) / 脚本 吉田紀子 / 音楽 吉川慶/HAL(ミラクル・バス)
監督 村上牧人(テレパック)、根本和政、室井岳人
プロデューサー 遠山圭介(東海テレビ)、松本圭右(東海テレビ)、幸石瑞穂(テレパック)、黒沢淳(テレパック)

OUTSTANDING PERFORMANCE AWARD

ドラマ
部門

ホドラ25 30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい
大映テレビ / テレビ東京



受賞者コメント

この度は優秀賞に選んでいただき、誠に有難うございます。30歳まで童貞だった安達と、その安達に秘かに想いを寄せる黒沢が紡ぐとてもビュナな世界を、どのように成立させるのかということ、スタッフ・キャストが共に模索した制作期間だったと思います。25時

台という遅い時間帯の放送にもかかわらず、多くの視聴者の方が見てくださり、作品を盛り上げここまで育ててくださったこと、感謝しかありません。

プロデューサー 熊谷 理恵
(大映テレビ)

講評

恋愛ドラマに視聴者が求める『ドキドキ』と『胸キュン』がざっしりと詰まった作品！男性同士の恋愛を特別なものとせず、登場人物達が恋する葛藤や切なさを、温かく優しく描いた物語が素晴らしい。応援したくなるようなキャラクターを丁寧に演じあげた出演

者、過剰にユーモラスにせず重いメッセージ性を前面に打ち出さず、あえて王道恋愛ドラマの演出を徹底したスタッフ陣の狙いと努力に、心から拍手を送りたい。

加藤 章一



©豊田悠/SQUARE ENIX・「30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい」製作委員会

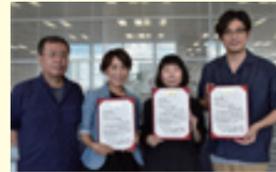
原作 豊田悠
プロデューサー 本間かなみ(テレビ東京)、井原梓(テレビ東京)、熊谷理恵(大映テレビ)
脚本 吉田恵里香(クイーンビー)、おかざきさとこ(クイーンビー)
演出 風間太樹(AOI Pro.)、湯浅弘章、林雅貴 / 音楽 堀口純香(Dimension Cruise)

奨励賞

INCENTIVE AWARD

ドキュメンタリー
部門

情熱大陸
ウイルス学者 河岡義裕
いまじん、オルタスジャパン / 毎日放送



演出 和田 萌(オルタスジャパン)
プロデューサー 中村卓也(毎日放送)
柴奈保子(いまじん)
重乃康紀
構成 田代裕

受賞者コメント

新型コロナウイルスに、世界が混乱し始めた2020年3月、このタイミングでウイルス学の最先端に居る河岡先生の取材ができたのは、今回プロデューサーを務めた重乃と柴が、15年前にこの番組で取材して以来、大切に繋いできた姿勢にある。そして「情熱大陸」には、取材をした者が感じた、実感と想いを大切に、制作体制がある。

演出 和田 萌
(オルタスジャパン)

講評

ウイルス学の権威を15年前に取材していたというのがミソである。その時の「予言」が今まさに現実のものとなっているのだから、興味を抱かないわけにはいかない。河岡先生が新たな発見に遭遇する瞬間をカメラが見届けているのも面白い。未知のウイルス研究の最前線を、同時進行で記録していたことになる。丹念な取材力で時代の一瞬を切り取り、他メディア、他番組に先駆けて放送にこぎつけたスピード感を高く評価したい。

三井 貴美也

ドキュメンタリー
部門

BSIスペシャル「外出自粛の夜に」「世界とつながる夜」
ウクレレでリレー音楽会
共同テレビジョン、NHKエンタープライズ / NHK BSI



制作統括 田無邦光(NHK)
面谷由加(NHKエンタープライズ)
プロデューサー 西山隆史(共同テレビジョン)
ディレクター 柳原秀年(ビーコンプロ)
伊藤任夜里
原田雅樹(共同テレビジョン)
相馬祐太

受賞者コメント

このような荣誉ある賞を頂いたことにスタッフ一同感謝申し上げます。昨年の緊急事態宣言下、世界中の出演者とスタッフがリモート越しにコミュニケーションをとりながら一丸となって撮影をしました。国ごとに深刻な状況を抱えていましたが、出演者たちの希望に満ちたコメントと感動的なウクレレの演奏を披露してくださいました。関口和之さんをはじめ、制作に協力して下さった関係者の皆様にお礼を申し上げます。

プロデューサー 西山 隆史
(共同テレビジョン)

講評

日本や世界のウクレレ愛好家たちをリレー式で繋げていく音楽ドキュメンタリー。パンデミックで国内外のロケが立ち行かなくなるなか、いち早くリモートの新手法に取り組んだチャレンジ精神、ウクレレ演奏で人々を繋ぐという斬新な企画力を高く評価したい。ウクレレの素朴な響きに、かくも癒しの力があると！不安と恐怖が世界を覆うなか、人々に寄り添って励ましや共感を届ける、テレビの大事な役割と新たな可能性を見せてくれた。

鐘川 崇仁

ドキュメンタリー
部門

BSIスペシャル 東京リトルネロ
テムジン / NHK BSI



ディレクター 松井至(テムジン)
内山直樹(テムジン)
久保田徹
制作統括 平野まゆ(テムジン)
吉田宏徳
(NHKグローバルメディアサービス)
浜野高宏(NHK)

受賞者コメント

観ていただき、ありがとうございます。2020年、コロナ禍をきっかけに制作者ができることを考え、街に出てドキュメンタリーを作りSNSで発信する「ドキューム」をはじめました。誰に頼まれるわけでもなく、なんの規制もなく、立ち現れる社会の現在に身を浸しながら記録を続けた、そのひとまずのまとめが『東京リトルネロ』になります。今も僕らはこの制作の渦中に居て、現在に立ち合おうとしているところです。

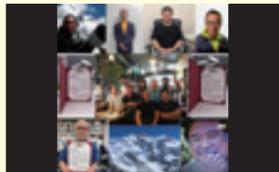
ディレクター 松井 至
(テムジン)

講評

コロナ禍をさまよう人々の小さな歌声(リトルネロ)を拾い集めた、ノーナレーションの秀作。「企画が通るのを待っていたら彼らの声を撮り逃してしまう」という思いに駆られ、「番組未定」のまま若手ディレクターらが街に飛び出してカメラを回した。ドキュメンタリーは作り手の「思い」の結晶であると改めて思う。単なるインサート映像ではない、孤独や焦燥を表す多様な心情カット。ノイズを重ね合わせる「音の編集」も秀逸。

八木 里美





プロデューサー 清水哲也
(ドキュメンタリージャパン)
演出 山田和也(ドキュメンタリージャパン)
撮影 中島健郎(登山家)
石井邦彦(登山家)
編集 梅田宣嗣(いちまるよん)
音効 増子彰(TSP)
演出助手 比腰哲也(ドキュメンタリージャパン)

グレートヒマラヤトレイル セクション4

カンチェンジュンガ “五大宝蔵を求めて”

ドキュメンタリージャパン / NHK BSプレミアム、BS4K

情報・バラエティ部門

受賞者コメント

「誰も見たことがない画を撮る」。そう言いながら、標高6000mの薄い空気の中で切り立った氷壁をこともなげに登っていく石井邦彦、中島健郎両カメラマン。難しい理屈はない。見たことがない画を視聴者に届けただけだ。テレ(遠くの)ビジョン(光景・映像)、未知の光景を求めて果敢なロケに挑んでいく。そんな二人の姿に、私はテレビマンの原点を見ていました。二人の仕事が評価されたことは大きな喜びです。

ディレクター 山田 和也
(ドキュメンタリージャパン)

講評

その頂に登りたい…その本能的な欲深さだけを追えば昔からある山岳ドキュメンタリーでしかない。しかしそこに「誰も見たことのない絶景を撮りたい、そして伝えたい」という思いが合わさったら、見応え満点の壮大なエンタメになった。ドローンや360°カメラなどを駆使し、まさにこの時代ならではの力作。ヒマラヤ山系の勇壮な映像美を求めるクライマー兼カメラマン二人の本気は、テレビサイズを軽々と超えてみせてくれた。

松葉 直彦



構成 大井洋一、齊藤大寛
プロデューサー 沢田健介(日本テレビ)
西垣信二(吉本興業)
演出 藤井良記(日本テレビ)

バーチャルコント

吉本興業 / 日本テレビ

情報・バラエティ部門

受賞者コメント

「CGを漫才・コントのネタに使えないかな？」ふとそんなことを思ったことから企画作りが始まり、そんな時に知り合ったCG・モーションキャプチャー等を手掛ける白組の本多さんや、これもご縁で番組化に協力いただいた日本テレビさん。人と人のご縁で出来た番組で歴史ある賞を頂いたことに大変な喜びを感じています。

最後に番組制作に御協力いただいたフリービット様に深く感謝の意を申し上げます。

プロデューサー 西垣 信二
(吉本興業)

講評

「コント」と「バーチャル」。誰もやったことのない掛け合わせに、「あーやられた!」「斬新!!」と思わず声が出てしまった問答無用の面白さ。芸人さんと制作チームが嬉々として戯れ遊んでいる様子から画面からも伝わり、何も考えず、大笑いし、驚き、感心した。コントだけで、漫画のようで、美術作品のように見える完成度。新しいコントの表現方法を確立した技ありの番組。

中根 三美



ディレクター 伊勢 朋矢(プラネタフィルム)
撮影 水野宏重(海プロダクション)
編集 太田一生(エール)
音楽(作曲) 関島岳郎
取材 植木咲楽(プラネタフィルム)
衣装 伊達環
制作統括 牧野望(NHKエデュケーション)
矢吹寿秀(NHK)

no art, no life

令和三年 表現者たちの幻想曲

プラネタフィルム / NHK BS4K、BSプレミアム

情報・バラエティ部門

受賞者コメント

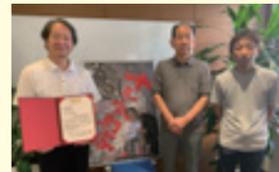
全国から独創的なアート作品を集めて、テレビの中で架空の展覧会を開こう! 役者さんも入れて、音楽もオリジナルで、...と動き始めたのは放送の2か月前。大変なスケジュールのなか、嫌な顔をせずに最後まで付き合ってくれたスタッフと出演者には感謝しかありません。そんな仲間たちに嬉しい受賞の報告ができてホットとしています。喉元過ぎれば熱さを忘れる。みんなと一緒に、次はどんな変てこな番組を作ろうか? 今から楽しみです。

ディレクター 伊勢 朋矢
(プラネタフィルム)

講評

近年、ネット配信コンテンツやYouTubeの台頭でテレビ番組の質や存在そのものが脅かされる中、計算された構成と緻密な演出は、テレビを作ってきたプロフェッショナルだからこそのもので、匠のひと言。デリケートな被写体取材することの難しさなど感じさせない取材者の絶妙な距離感と、生み出す空気が映像から溢れており、主人公たちがみな生き生きと描かれていた。ドキュメントを包み込む演出部分のキャスティングも秀逸だった。

芦田 政和



原作 池宮彰一郎
脚本 土橋章宏
音楽 沢田亮
演出 全佑彦
制作統括 内堀雄三(ユニオン映画)
種彦典英(NHKエンタープライズ)
磯智明(NHK)

ドラマ部門

スペシャル時代劇 十三人の刺客

NHKエンタープライズ、ユニオン映画 / NHK BSプレミアム

受賞者コメント

1963年東映映画「十三人の刺客」のリメイクにあたって刺客の世界とは真逆の「命をつなぐ」をテーマの一つにしました。新たな命に希望を託したかったからです。30分を超える殺陣の撮影は炎天下、スタッフキャストの苦勞が報われた仕上がりになったと自負しています。また当時の刺客の衣装が現存していることを知り使用させていただいたことはオリジナル作品へのオマージュにもなったかと。奨励賞ありがとうございます。

制作統括 内堀 雄三
(ユニオン映画)

講評

映画のリメイク作品でありながら、改めて時代劇の面白さと可能性を見出した作品! 時代劇ならではの殺陣の面白さに加え、忠誠心や仁義を描いた人間ドラマ部分が配役のうまさもあって非常に見応えがあった。連続時代劇制作の場が限られていく中で、単発SPドラマでもエンターテインメント感の強い時代劇を制作出来る事を証明した本作の意義はとて大きいと感じた。スタッフ・キャストの皆様の努力に敬意を表したい。

加藤 章一



監督 中田秀夫
脚本 元麻布ファクトリー
特別協力 大石哲也
音楽 川井憲次

ドラマ部門

日曜ドラマ リモートで殺される

AOI Pro. / 日本テレビ、Hulu他

受賞者コメント

この度は奨励賞という素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。今だからこそできるエンターテインメントを、というテーマの元、日本ホラー映画の巨匠・中田秀夫監督を迎え、さらに、女優のみに限らずYouTubeなどでも人気を誇る、本田翼さんを主演に、コロナ渦でもエンタメの火を止めないために、限られた環境の中で、今を象徴するドラマを制作しました。完成のために尽力してくれた、キャスト、スタッフに感謝いたします。

プロデューサー 森田 美桜
(AOI Pro.)

講評

コロナ渦で世間に広がっていた不安を逆手に取った意欲的なミステリードラマ! 世間が自宅待機によるコミュニケーション不足や慣れないリモート勤務・授業など経験した事のない不安に包まれていた当時、それを逆にエンターテインメント性の高いサスペンスドラマに取り入れたアイデアが素晴らしい。ホラーサスペンスとしても見応えのある演技と演出をされた、キャスト・スタッフの皆様の努力に敬意を表したい。

加藤 章一



監督 河合 勇人
監督 千村利光
脚本 小山正太(Sacca)
音楽 牧戸太郎

ドラマ部門

FAKE MOTION 卓球の王将

AOI Pro. / 日本テレビ、Hulu他

受賞者コメント

この度は奨励賞という素晴らしい賞を頂き、ありがとうございます。このドラマは、少年ジャンプの世界観を実写で、というテーマで、卓球青春のオリジナルストーリーを描きました。さらに、音楽などの要素も加え、様々な角度から楽しめるエンターテインメント作品になったと思います。卓球シーンの撮影は、球無しで撮影する合成シーンも多く、大変でしたが、全力で取り組んでくださった、キャストやスタッフに皆さんに感謝します。

プロデューサー 森田 美桜
(AOI Pro.)

講評

ストーリーの獨創性、エンターテインメント性において非常に優れた作品。卓球で下剋上という発想が実に面白く、テンポの良い演出や、カメラワークも◎。キャストの個性も上手に引き出し、また、テレビドラマ以外の多メディアへの展開が成功したことや、多くのティーン世代に受け入れられた功績は大きく、複数社での制作スタイルの利点が功を奏した結果だと思う。

佐野 奈緒子

最優秀新人賞 & 優秀新人賞

BEST NEWCOMER AWARD



企画・演出・編集
榎本 雪子
(オルタスジャパン)



ザ・ノンフィクション
家族のカタチ
～ふたりのお母さんがいる家～
フジテレビ

プロデューサー 菅原剣士郎(オルタスジャパン)
チーフプロデューサー 西村陽次郎(フジテレビ)
企画・演出・編集 榎本雪子(オルタスジャパン)
撮影 関強(オルタスジャパン) / 構成 重乃康紀



受賞者コメント

私が取材したのは、お父さん1人、お母さん2人、子供6人という家族形態で暮らす大家族。私は、取材当初からお母さんである2人の女性が「本当に幸せなのか…」ずっと疑問を持っていました。そして会う度に、そのことを様々なかたちで問いかけました。しかし、何度聞いても「自分が選んだ生き方だから」という2人。私はなかなか共感できず、この番組をどうまとめればよいか不安に感じていました。しかし、カメラを向けること半年…。私

はあることに気付きます。「彼女たちの言葉は、8年間この家族で生きてきたからこそ言葉なんだ。同じように生きてみなければ本当の意味で共感することはできないのだと。」番組づくりは共感できることが全てだと思っていた私に、この家族は新しい価値観を与えてくれました。月並みな私が最優秀新人賞を頂けたこと、このまま突っ走っても良いのだと背中を強く押して貰えた気がしています。

講評

“物差し”はひとつではない、その単純なことに気づく。家族とは、人を愛するとは…取材者のなかで数多の疑問と感情が渦巻いたはずだ。しかし、取材を重ねるうちに取材者が自身の物差しをそっと仕舞ったであろう柔軟性に感銘を受ける。極めて私的なテーマを、家庭に入り込みながら撮る。その難しさを軽やかに飛び越えている。大仰なクライマックスも結論もない、決してテレビの都合に押し込めない切り取り方も清々しかった。

永井 朝香



優秀新人賞

EXCELLENCE NEWCOMER AWARD



演出
梅元 裕矢 (クリエイティブネクサス)

ねこ育ていぬ育て
NHK BSプレミアム



演出 梅元裕矢(クリエイティブネクサス)
小林稔晶(クリエイティブネクサス)
プロデューサー 井上啓子(クリエイティブネクサス)

受賞者コメント

「生き物の面白さや尊さを世に発信したい」と考えこの業界に飛び込み、猫・犬の番組に携わることができ、このような賞まで頂けたことを大変嬉しく思っております。番組制作当初、映像制作に関してほとんど知識

がなかった自分に手取り足取り面倒をみてくださった先輩スタッフ、そして何よりも取材にとことん付き合ってくださいましたご家族と猫・犬たちのおかげです。皆様への感謝を忘れずに今後の番組作りに精進してまいります。

講評

人が犬や猫を飼うというドキュメンタリーの中で、しっかりと主役が犬や猫になっている事が素晴らしい。動物のちょっとした仕草や表情、飼い主との関係性がわかる象徴的なカットを丁寧に積み重ね構成・編集されているなど感じた。連日の定点撮影の映像など膨

大な素材の中からこうしたカットを的確に選んでいけるのは、VTRに愛情が無ければできない。動物を通して視聴者の感情を揺さぶられる大変良い作品。

田辺 純平



脚本・演出
武井 佑吏 (テレビマンユニオン)

今夜の旅はドラマチック
古都プラハ殺人事件
NHK BS4K



脚本・演出 武井佑吏(テレビマンユニオン)
プロデューサー 宮崎和子(テレビマンユニオン)
制作統括 奥平裕子(NHKエンタープライズ)
一矢好彦(NHK)

受賞者コメント

毎朝、午後2時に起床し、毎晩、午前7時には眠りにつきます。7時間ある東京とプラハの時差に対応するためです。チェコ人はボヘミアンなので、撮影の開始は常に1時間は遅れ、それでいて昼食は2時間きっちりとりまします。私は渋谷区からロケの様子をZOOMで覗き、指

示をします。田舎へ入ればインターネットは繋がらず、パソコンの前で祈るだけ。それでも私が温かい部屋でヌクヌクしている間、氷点下でロケを敢行してくれたプラハクルーに大きな感謝を申し上げたいと思います。

講評

旅番組と殺人事件の組み合わせ、主人公を犬にするという世界観にセンスを感じた。撮影は、コロナ禍の中でのリモートロケだったと聞きましたがそれを感じさせない画撮りにも感心した。このクオリティをリモートで指示し、撮影していると想像すると、撮りたい画

がしっかりイメージできた上でしっかり伝えられているのだろう。ディレクターの企画力、伝える力、画のこだわりを感じる作品。

田辺 純平



ディレクター
柳田 香帆 (テムジン)

いいいじゅー！！
「埼玉・小川町」「長崎・五島市」
NHK BS4K

受賞者コメント

ただただロケが楽しくて、編集が面白くて、仲間ものづくりをする過程が愛おしくて…終始「楽しい！」のエネルギーでノリに乗って走り切ったとき、出来上がったのがこの番組でした。ご出演頂いた移住者の皆様、一緒に番組

の世界観を作って下さったスタッフの皆様、そして、入社からこれまで様々な番組でご指導下さった全ての先輩方に心より感謝を申し上げます。これからも素敵な仲間と共に、大好きな番組作りができれば幸いです。

講評

住めば都と言うけれど、住んだら住んだで煩わしい。そんな心配もサッと吹き飛ば、めくるめく移住者たちの物語。思わず移住情報サイトを検索するほど揺さぶられた。とにかく登場人物が個性的で豊かなのだ。そして地域のコミュニティが尊い。地元ならではの新

鮮な野菜やお肉、古民家を改装した広くて味わい深い住居。それが格安で手に入る。お宝を掘り起こす感覚に近いのかもしれない。…もう、完全にディレクターの思うツボだ。
下地 敏史



ディレクター 柳田香帆(テムジン)
制作統括 吉本知裕(NHK)、鈴木真美(NHKエンタープライズ)
鎌川崇仁(テムジン)



プロデューサー
雫石 瑞穂 (テレパック)

オトナの土ドラ
その女、ジルバ
東海テレビ・フジテレビ系

受賞者コメント

この度は、第37回ATP賞優秀新人賞を頂き、ありがとうございます。「その女、ジルバ」という作品は、出演者の皆様、スタッフの皆様、お一人お一人の素晴らしい情熱によって出来上がった作品です。個人としましては、主人公・

笛吹新の成長と共に自分自身も成長させて頂いたように思いますし、福島出身の新しい思いに、福島出身の自らの思いも幾ばくか、重ねさせて頂いたように思います。この作品を宝物にし、今後とも精進して参ります。

講評

それぞれの背景や葛藤を理解できると声高にせず「全ては分からないが、今は一緒にいよう」という関係の描き方に救われる。職場、自宅、実家…ありふれた日常という舞台上、年を重ねた自分が主役の、しかし、これ以上ないドラマチックな物語。現実を生きながらテレビ

を見る視聴者の一人として共感した。多くの人が連なるドラマ制作で、その端緒を開いた感性と想像力に驚嘆する。
永井 朝香

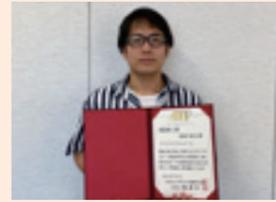


代理でテレパック代表取締役社長・橋本孝さんに受け取っていただきました



©東海テレビ/テレビック

原作 有間しのぶ(小学館) / 脚本 吉田紀子
音楽 吉川慶/HAL(ミラクル・バス)
監督 村上敦人(テレパック)、根本和政、堂井岳人
プロデューサー 遠山圭介(東海テレビ)、松本圭右(東海テレビ)、
雫石瑞穂(テレパック)、黒沢淳(テレパック)



演出
竜崎 琢也 (共同テレビジョン)

アンタッチャブル・レコード
フジテレビ

受賞者コメント

自分にとって思い入れのある番組で受賞することができ、とても嬉しく思っております。これもひとえに、フジテレビ前田さんをはじめ、サポートして下さった先輩方のおかげです。番組の演出を任せていただいたこと。このタイミングで大きな経験をさせていただき、この先のテレビマン人生において、大切な財産になりました。改めて、取材にご協力いただいた方々、出演者の皆様、制作チームの皆様、ありがとうございました。

講評

有名番組からパロディをつまみ食いにする大胆な演出と、ナレーションで説明したくなる所を、流れを止めずにワイプリアクションで処理したり、笑いの効果音を足さなかったりと、細かい演出も光っていた。また、リモート取材でもハラハラする緊張感を醸し出したのは素晴らしい。「余計なお世話だよ！」と怒鳴られそうな、触れてはいけない記録に手をつけるチャレンジングな内容ながら、観ている者を不快にさせない番組。
加藤 信



企画 前田泰成(フジテレビ)
演出 竜崎琢也(共同テレビジョン)
構成 興津家乃(シールド)
プロデューサー 池端強
(共同テレビジョン)



ディレクター
藤田 成 (日本電波ニュース社)

中村哲の声がきこえる
NHK 総合

受賞者コメント

弊社にある中村医師関連素材には日本の若者たちの姿も映っています。過酷な環境にもかかわらず、土埃にまみれながら生き生き働く姿が印象的でした。映像の若者たちは、現在40代。中村医師のように自分にできることは何かを考え、見栄を張らずに生きる姿は純粋にカッコよく見えました。賞をいただいたのは先輩方が掘り溜めてきた映像があったのと、コロナ禍でも取材に応じてくれた皆様のおかげです。改めて感謝したいと思います。

講評

本作品では、アフガニスタンの枯れた大地を緑で潤す計画に日本から来た若者たちが東奔西走する姿を映し出す。そして20年という歳月を経て、彼らが中村医師から得たものを問いかける。ディレクターは、今この作品を世に送る意味は何なのか必死に考えたはずだ。中村の功績を単に称えるものではなく、真のメッセージに深く潜っていく。それは「一隅を照らす」という中村の言によって帰結し、見事成功している。いつまでも胸に残る作品。
下地 敏史



©日本電波ニュース社

ディレクター 藤田成(日本電波ニュース社)
撮影 谷津賢二(日本電波ニュース社)
語り オダギリジョー(純牛倶楽部)
朗読 長谷川勝彦 / 編集 志賀由美子(MTS)
AD 山本勘介(日本電波ニュース社)
制作統括 中村雅人(NHKエンタープライズ)
上田未生(日本電波ニュース社)
東野真(NHK)



ディレクター
横田 洋 (NHKエンタープライズ)

レギュラー番組への道
浮世物語 江戸の疫病処世術
NHK BSプレミアム

受賞者コメント

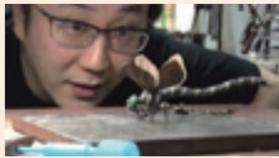
この度はこのような賞を頂き、ありがとうございます。番組のために尽力して下さったプロデューサー、CG制作の下田さん、編集の水上さん、音響効果の高野さん、そして何度も取材にご対応いただいた鈴木則子先生に改めて感謝いたします。続編では、さらなる高みを目指し、頑張りたいと思います。

講評

未だ猛威を振るう新型コロナウイルスに、明日の我が身を案じる頬をビシヤリと叩いて振り向かせた本作品。現代のように電子顕微鏡やDNAの解析技術が存在しない先人たちは、未知の病とどう向き合ってきたのか。世界中からかき集めたという浮世絵だけで江戸を襲った疫病を表現し、「共存」という精神性まで描いたディレクターの手腕と熱量に驚かされた。視聴者を飽きさせない構成、画の動かし方は、新人とは思えないレベルである。
下地 敏史



ディレクター 横田洋(NHKエンタープライズ)
プロデューサー 坂部康二
(NHKエンタープライズ)
羽田まどか
(NHKエンタープライズ)
伊川義和
(NHKエンタープライズ)



演出 杉本誠(ドキュメンタリージャパン)
構成 田代裕(FOR田代裕事務所)
長谷川三郎(ドキュメンタリージャパン)
撮影 高野大樹(いちまるよん)
編集 鈴木啓太(いちまるよん)
音響効果 増子彰(東京サウンド・プロダクション)
演出補 村山花(ドキュメンタリージャパン)
プロデューサー 新津総子(ドキュメンタリージャパン)
中村卓也(毎日放送)



制作統括 藤田英世(NHK)
丸山俊一(NHKエンタープライズ)
プロデューサー 大西隼(テレビマンユニオン)
ディレクター 高村安以(テレビマンユニオン)
アシスタントディレクター 山内理実
(テレビマンユニオン)



脚本 小松屋たから
Pro/Epi演出 本多繁勝(AX-ON)
音楽 窪田ミナ(PYXIE LLC)、加藤みちあき
プロデューサー 渡邊浩仁(AX-ON)
柳内久仁子(AX-ON)

演出

杉本 誠 (ドキュメンタリージャパン)

情熱大陸

自在置物作家 満田晴穂

毎日放送

受賞者コメント

生き物の工芸的な造形と、それを紐解く、模刻を極めた作家の心。そんなワクワクする世界に触れられて嬉しです。300年以上の伝統を一人孤独に背負いながらも、楽しむことを忘れない満田さんの姿はとても魅力的でした。満田さんご家族をはじめ、番組に関わってくださった皆様、難儀した面もありましたが、実りの多い9カ月間でした。心から感謝します。いつか、オオゲジゲジの自在置物を手に入れて、床の間に飾りたいです！

田辺 純平

講評

近年、有名人や時の人を取り上げることが多い情熱大陸で自在置物作家を取り上げた事、その満田さんがすごく魅力的に観られた事が良かった。自在置物に対する愛情、気が遠くなるほど繊細なこだわりの技術、そしてなによりも、少年のような性格がしっかりと伝わって来た。これは、ディレクターが満田さんと時間をかけて向き合い、関係性を築いたからこそ。この賜物。作り手側の努力も感じられる良い作品。

ディレクター

高村 安以 (テレビマンユニオン)

地球タクシー 横浜を走る

NHK BSI

受賞者コメント

コロナ禍で海外、ましてや首都圏以外の取材も厳しくなっていたなか向かったのは『横浜』。以前よりも、かなり制限が多いなかでの取材。それでも変わらなかったのは、タクシーを通した“一期一会の出会い”と、番組スタッフ全員の“創造力の総力戦”、そして横浜の夏空でした。4年間番組に携われたこと、そのなかで出会ったたくさんの方に感謝します。番組は休止になってしまいましたが、また海外に行ける日を夢見て走り続けます。

加藤 信

講評

ディレクターの粘り強い交渉から縁のできたタクシー運転手から語られる、様々な横浜の姿。中華街のケバブ、生粋のハマっ子の少年時代にした冒険、女性ドライバーの青春、スポーツカーのたまり場など、その運転手からしか生まれない内容を上手く引き出した。カメラマンとの連携で捉えた、街を象徴する挿絵も躍動感があった。会話で生まれる「リアルな間」も随所で生かし、観ている者も乗車している気にさせる素晴らしい作品。

演出・監督

鯨岡 弘識 (AX-ON)

WOWOWオリジナルドラマ

文豪少年! ~ジャニーズJr.で名作を読み解いた~ #1「クモの糸」

WOWOW (プライム/4K/オンデマンド)

受賞者コメント

この度は、奨励新人賞を授与していただき誠にありがとうございます。本作にはひとえに、クラシックの文豪作品をベースにしながらも、主人公に少年を据えて化学反応を求める企画の新しさがありません。妄想を軸とした物語の自由に悩むことも多々ありましたが、若き俳優陣と共に多くを話し合い、挑戦する場をいただけたことに改めて御礼申し上げます。今回の受賞を糧に、より一層精進してまいります。

永井 朝香

講評

「誰もが知る」を逆手に取った新しい解釈を面白く拝見した。短篇である原作を読み込みながら、空想を重ね/時代を飛び越え/自分と遠ざけたり近づけたりした豊かな時間があっただろうと拝察する。そこから立ち上がった寓話的な映像世界や心情描写に制作者の独自性を感じた。原作が書かれた大正時代から時は流れて令和のいま、救いの糸を垂らすのは蜘蛛ではなく“猫”である…制作者の遊び心や風刺もきいている。

特別賞

SPECIAL PRIZE

澤田 隆治



ご子息の澤田啓介さんにトロフィーを受けとっていただきました

受賞者コメント

父の代表作「てなもんや三度笠」の頃、私は生まれていません。幼稚園の頃、大阪から東京へ引っ越し、父は独立プロダクションを立ち上げ「ズームイン!!朝!」「花王名人劇場」をスタート。関西のディレクターが東京で名を成すなど、当時としては前例の無いチャレンジ。過剰な忙しさ。私は家で父を見た記憶がありませんでした。それでも番組の裏側に父の存在を感じ、尊敬しておりました。昭和平成を生き現役で駆け抜けた偉大な父でした。

遺族代表 澤田 啓介
(有限会社澤田工房 代表取締役/原型師)

推薦理由

テレビ創成期を牽引した名ディレクターとして数々のヒット番組を手掛け、昭和61年には ATP 理事長に就任し、番組製作会社の地位向上など業界発展に尽力されました。これらの多大なる功績に対して特別賞を贈呈いたします。

「行列のできる法律相談所」制作チーム



©NTV



受賞者コメント

20年前、法律バラエティとしてスタートした行列。日曜の夜を視聴者の皆さんに、いかに飽きずに楽しく見て頂くか? 趣向を凝らし、毎回新規特番を作る気持ちで制作しています。総合演出の高橋利之さんを筆頭に日本テレビ、製作会社3社のスタッフが一丸となり、より楽しい面白い番組を提供しようと、真摯に工夫を重ねたことが、20年も続いた理由ではないかと思えます。

この度は、特別賞に選んで頂きありがとうございます。

チーフディレクター 木下 仁志(いまじん)

推薦理由

日常のトラブルを切り口にゲストの考え方やエピソードを引き出す番組から、今や様々なテーマに挑むエピソードトークバラエティに進化。20年にわたり走り続ける番組パワーに敬意を表し、特別賞を贈呈致します。

「吉田類の酒場放浪記」制作チーム



©BS-TBS



番組に出演されている吉田類さんが会場に駆けつけてくださいました

受賞者コメント

受賞者を代表いたしまして、感謝と御礼を申し上げます。番組は今年18年目を迎え、2月には放浪1000回スペシャルを放送しました。2003年の初回から番組のフォーマットは全く変わっておりません。手持ちカメラを駆使し、過度な演出をしないスタイルを歴代スタッフが守り続けています。そして、吉田類さんは自然体で溶け込み、酒を傾けます。本受賞を励みに、今宵も酒場クローリング。次なる節目に向け、酒を求め肴を求め彷徨います。

プロデューサー 尾馬 達朗(TBSスパークル)

推薦理由

民放BS開局間もない2003年スタート。BSオリジナル番組としてBS放送全体の普及に寄与し、民放BS全体の看板番組的存在となりました。継続は力なり、愚直は芸なり。その1000回突破に敬意を表し、特別賞を贈呈いたします。

総務大臣賞

MINISTER OF INTERNAL AFFAIRS AND COMMUNICATIONS AWARD

NHK BS1スペシャル 良心を束ねて河となす 医師・中村哲 73年の軌跡

日本電波ニュース社、NHKエンタープライズ / NHK BS1



©日本電波ニュース社



ディレクター 櫻木まゆみ(日本電波ニュース社)
撮影 辻智彦(ハイクロスシネマトグラフィ)、谷津賢二(日本電波ニュース社)
編集 佐藤公二(エール) / AD 小坂夏美(日本電波ニュース社)
制作統括 金濱理卯(NHKエンタープライズ)、上田末生(日本電波ニュース社)

受賞者コメント

私たちは1998年から21年にわたり、パキスタン・アフガニスタンで中村哲医師の活動を取材してきました。戦乱と干ばつに苦しむ人々に寄り添い続けた中村医師の揺るぎない姿勢はどこからくるのか、番組ではその源泉を探るため多くの友人や同志、ご家族を訪ねました。虫好きの少年がやがて干ばつの大地を緑野に変え65万

人の命を支えるに至る73年の軌跡は、気候変動の中で生きる私たちに、貴重な道しるべを遺してくださったように感じます。

プロデューサー 上田 末生
(日本電波ニュース社)

総評 COMPREHENSIVE EVALUATION

応募作品すべてが今自分たちにできることと 全力で向き合った力作



審査委員長
井上 啓子

本年度の審査方針は「コロナ禍で人々の『生きる糧』となった番組」としました。2020年、人々が大きな困難と直面した年。テレビは何ができたのか。今だからこそ、人々に「生きる希望やエネルギー」を与えた番組を選びたいと考えました。審査の過程で印象に残ったこととしては、ドキュメンタリー部門での議論があります。地味で普段視聴者が関心を持たないようなことではあるが、大切なことを取り上げた番組に光をあてるか。それとも、時

代のニーズにあったテーマを深く掘り下げた番組を評価するか。テレビのあり方にも関わる大変難しい議論でありましたが、今回は、コロナ禍で「より多くの人の心を動かした」という点を最終的な判断基準とさせていただきます。受賞作はもちろん、応募作品すべてが今自分たちにできることと全力で向き合った力作。審査する私たち自身も大きな力をいただきました。

部門講評 DIVISION REVIEW

● ドキュメンタリー部門 ●

底力を発揮した全ての 製作者に心から 賞賛と敬意を表する

新型コロナウイルスが猛威を振るうなか、ドキュメンタリーの製作者たちはロケに出ることもままならず苦戦を強いられてきた。しかし未曾有の逆境でありながら、今年は例年にも増して66本の作品が寄せられた。およそ3分の1がコロナ禍に関連する内容だった。ドキュメンタリーに何が出来るかを真摯に問い、昼夜知恵を絞り、底力を発揮したすべての製作者に心から賞賛と敬意を表する。その他、10年を迎えた東日本大震災、戦争体験、アート、教育、スポーツ、エンタメなどジャンルは多岐にわたり、受賞ならずとも優れた意欲作が数多くあった。困難な時代にこそドキュメンタリーはより良い未来の糧となる、そう確信する。

審査委員 鐘川 崇仁

● 情報・バラエティ部門 ●

創り手の覚悟が 新たな手法や スタイルを生んだ

コロナ禍、いかにエンタメを継続していけるか？我々全員が体験したこの一年余りの試行錯誤の日々は、自らの足元を見つめ直し、初心に立ち返らざるを得ず、結果改めてテレビや映像コンテンツの意義について考える時間にもなったはずだ。それは応募数に如実に表れ、情報・バラエティ部門にはここ10年で最多、硬軟さまざま60を超える力作が寄せられた。数だけでいえばNHK偏重の傾向は相変わらずだが、対して非テレビの配信系は活況、フィールドは確実に広がっている。不自由な中でも面白いモノは作れる。創り手個々のそんな覚悟が新たな手法やスタイルを生んだ2020年。苦しんだ分だけ、テレビはまだまだ新しいことができると、心強くした。

審査委員 松葉 直彦

● ドラマ部門 ●

クオリティ衰えず ドラマ屋の矜持感じる 更なるドラマの 誕生に期待

応募総数43作品。おそらくすべてコロナ禍での制作であろう。長期に渡るドラマ制作において、特に最初の緊急事態宣言を挟み、継続、中断、再開…日々繊細で厳しい判断が続いたと思う。安心安全な制作現場確保に奔走し無事視聴者に届けてくれた全てのドラマ関係者に敬意を表したい。ドラマクオリティは些かも衰えておらず、さらに意気軒昂。ここぞというドラマ屋の矜持を感じさせるものばかりで、コロナを感じさせないもの、あえて設定に取り入れるもの、どれもチャレンジ精神に満ちていた。「アフターコロナ」時代。新しい作り方の模索は続くが、この事態をチャンスに変えて更なる新しいドラマの誕生を期待したい。

審査委員 代情 明彦



審査委員長
大野 光浩

新時代を担う若きクリエイターたちの 才能が飛躍するきっかけになる賞

新人賞エントリーはドキュメンタリー9作品、ドラマ3作品、情報・バラエティ7作品。長引くリモートワークを背景に人材育成が業界の大きな課題となっている。審査員一同、新時代を担う若きクリエイターたちの才能が飛躍するきっかけを作ってあげたい。そんな思いで審査した。作品は新しい映像ビジュアルに挑戦したも

のや、コロナ禍での取材に工夫を凝らしたもの、剥き出しの好奇心で密着し続けたもの。そして普遍的テーマに誠実に迫ろうとしたもの。そのどれもに製作者としての熱量を感じることができ、大変頼もしい。ここから多くのスタークリエイターが生まれることを願う。



審査委員長
吉村 文雄

中村哲医師の人生と功績が 世界に知られるきっかけになることを願う

本年度は6作品が総務大臣賞候補として推薦され、選考基準である「海外での評価に耐えうる個性的な演出の番組」に基づき審査が行われた。「チェリまほ」の略称で放送時にSNSで大きな反響を呼び、全世界配信も展開中のドラマ「30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい」、結婚を機に凶らずも選択的夫婦別姓の問題に直面したディレクターのセルフドキュメンタリー「夫婦別姓“結婚”できないふたりの取材日記」、幕末に活躍した浮世絵師・歌川広重作「名所江戸百景」に隠されたメッセージを読み解く「東京前夜 広重の暗号」、俳句とラップの融合を軸に言葉の持つ力を描いたドラマ「あんのリリック 桜木杏、俳句はじめてみました」、最新研究に基づき男女の性の概念を見つめ直す「オトコとオンナ “性”の

ゆらぎのミステリー」、一昨年アフガニスタンで凶弾に倒れた中村哲医師の人生の軌跡を21年間の密着取材で綴ったドキュメンタリー「良心を束ねて河となす 医師・中村哲 73年の軌跡」といういずれも個性的な候補作の中から一つの作品に絞る過程は4名の審査員を大いに悩ませることとなったが、「チェリまほ」「夫婦別姓」「良心を束ねて河となす」の3作品を最終候補として議論を重ねた結果、「良心を束ねて河となす 医師・中村哲 73年の軌跡」が総務大臣賞として選出された。受賞を機に、医療の不平等への疑問から困難な状況にある人々への医療提供や生活環境の改善に真摯に取り組み続けた中村哲医師の人生と功績を世界に知っていただく機会となればと願う次第である。

総務大臣賞 ノミネート作品

● ドキュメンタリー部門 ●

夫婦別姓“結婚”できないふたりの取材日記

● 情報・バラエティ部門 ●

浮世絵ミステリー 東京前夜 広重の暗号

ヒューマニエンス 40億年のたくらみ 「オトコとオンナ “性”のゆらぎのミステリー」

● ドラマ部門 ●

ホドラ25 30歳まで童貞だと魔法使いになれるらしい

ドラマWスペシャル あんのリリック 桜木杏、俳句はじめてみました

CREDIT

◆審査委員会

審査委員長 井上 啓子 (クリエイティブネクサス)

ドキュメンタリー部門 審査委員

鐘川 崇仁 (テムジン)

三井 貴美也 (ディレクターズ東京)

八木 里美 (バンエイト)

情報・バラエティ部門 審査委員

芦田 政和 (ジャンプコーポレーション)

中根 三美 (IVS テレビ制作)

松葉 直彦 (テレビマンユニオン)

ドラマ部門 審査委員

加藤 章一 (TBS スパークル)

佐野 奈緒子 (C.A.L)

代情 明彦 (AOI Pro.)

◆新人賞

審査委員長 大野 光浩 (えすと)

審査委員 加藤 信 (大河プロダクション)

下地 敏史 (いまじん)

田辺 純平 (ジッピー・プロダクション)

永井 朝香 (ドキュメンタリージャパン)

◆総務大臣賞

審査委員長 吉村 文雄 (東映)

審査委員 井口 高志 (電通)

品田 英雄 (日経 BP)

長谷川 朋子 (放送ジャーナル社)

第37回 ATP 賞テレビグランプリ受賞式

2021年7月7日 (水)

六本木ヒルズハリウッドホール

司会・進行：内田 嶺衣奈 (フジテレビ)

主催：一般社団法人全日本テレビ番組製作社連盟

後援：総務省、経済産業省、日本放送協会、

一般社団法人日本民間放送連盟